

「薬害」について学ぼう ① ～ 薬害の特徴や原因を知ろう

1 はじめに

皆さんは、病気を治そうとしたらどうしますか？ 病院に行って注射を打ってもらったり、もらった薬を飲んだりしませんか。ところが、その薬や注射で病気になったり。後遺症や障害が残ったり、命を落としたりしたとしたら……。このように健康になろうとして、反対に多くの人たちが体を壊し、命が奪われる悲劇が、今まで何度も繰り返されてきました。それを、「薬害（やくがい）」と言います。

今も、私たちはいろいろな薬を飲んだり、ワクチンの注射を打ってもらったりしています。今後、私たちが薬害の被害者にならないためにはどうしたらいいのでしょうか。この悲劇を繰り返さないためには、まず今まで起こった薬害について知り、その原因を見つけていきましょう。そして、どうしたら薬害を防ぐことができるのかを考えましょう。また、あなたはどんなことができるでしょうか。自分や大切な人たちの未来のために、学んでいきましょう。



2 動画「薬害を学ぼう」を見て、薬害について知ろう

＊ 薬害の歴史や被害者の声を知り、どうしたら薬害を防ぐことができるかを考えていきましょう。

< メモ > # 気になることや印象に残ったこと、思ったことなどをメモしていきましょう。

3 薬には主作用と（ 作用 ）があります

薬や注射には、病気やケガを治す働き（主作用）と、それ以外の働き（ 作用 ）の2つの働きがあります。この①の作用には、たとえば「花粉症の薬を飲んだら眠くなった」、「新型コロナのワクチンを注射したら、熱が高くなったり、腕が痛くなったり、体がだるくなったりした」などがあげられます。この原因は、薬の性質やその人の使い方、薬を使った人の体質やその時の体の状態などです。

4 薬害は、ただの副作用と違う原因があります

＊ 単なる「副作用」と「薬害」の違いは、どこにあるのでしょうか。パンフレットp1～2を読んで、4つの薬害の「被害者数」と「原因」の共通点を見つけましょう。↑

・ジフテリア予防接種による健康被害	被害者 924 人（死亡 83 人）
【原因】（ア）の製造ミスが原因でワクチンにジフテリアの毒素が残っていました。	
・血液製剤による HIV（ヒト免疫不全ウイルス）感染	被害者 1400 人以上
【原因】（ア）は薬の危険性を知りながら販売を続け、（イ）は HIV 感染防止の有効な対策を取らなかったことで被害が拡大しました。	
・血液製剤による C 型肝炎ウィルス感染	被害者 約 1 万人
【原因】（ア）の製造責任は重く、（イ）は甚大な被害の発生、拡大を防止できませんでした。	
・MMR ワクチン接種による無菌性髄膜炎	被害者 約 1800 人
【原因】（ア）が国に報告していない薬の作り方をしていた。（イ）の監督が不十分だった。	

薬害の名前は、聞き慣れない薬や病気の名前が入っていて難しく感じるかもしれませんが、正確に書くために必要な名前になっています。ポイントだけ読み取ってください

【薬害の特徴①】 薬を飲んで（注射を打って）、一度に（ ）の人が被害を受けた。＊作られた薬に重大な欠陥があった。被害が発見されても禁止されなかった。

【薬害の特徴②】 それらの薬害の原因として、（ア ）と（イ ）の責任が指摘されている。＊害のある薬をつくった責任、その薬の使用や販売を認めた責任

5 被害者の方のお話を前に、「陣痛促進剤」の被害を知っておこう

出産するとき、お母さんの子宮は、子宮を縮ませたり、ふくらませたりして赤ちゃんを強く押し出そうとします。そのため、お母さんのお腹は間隔を置いてとても痛くなります。それを陣痛（じんつう）と言います。陣痛促進剤（じんつうそくしんざい）は、その押し出す動きを強くする薬です。なかなか生まれないとお母さん（母体）にも大きな負担がかかりますので、そういう時に役立つ薬ですが、それをむやみやたらに使った（乱用した）ことで大きな被害が出ました。パンフレット p 2 の右下を読んで、キーワードを書き入れましょう。年代は「1970 年頃～」となっていて、終わりが書いてありませんが・・・。

陣痛促進剤による（胎児の や 重度の ）、（ が死亡）するなどの被害が起きました。（ の が大きい）にもかかわらず、（適切な ）徹底されなかったことなどが原因と言われています。

「薬害」について学ぼう ②

～ 被害者の方のお話を聞こう

1 陣痛促進剤の乱用で長女を亡くされた、勝村久司さんのお話を注意深く聞こう

講師の勝村久司（かつむら／ひさし）さんは、木津川市に住んでおられますが、病院が陣痛促進剤を多量に使用されたために、長女を亡くされました。

あなたは、薬害の被害者の声を、どのように受け止めますか？ お話を聞きながら、気づいたことや新しくわかったこと、そして考えたこと（疑問も含みます）などをメモしていきましょう。3校時には感想をまとめてもらうとともに、「薬害を防ぐためにどうしたらいいのか」を考えましょう。

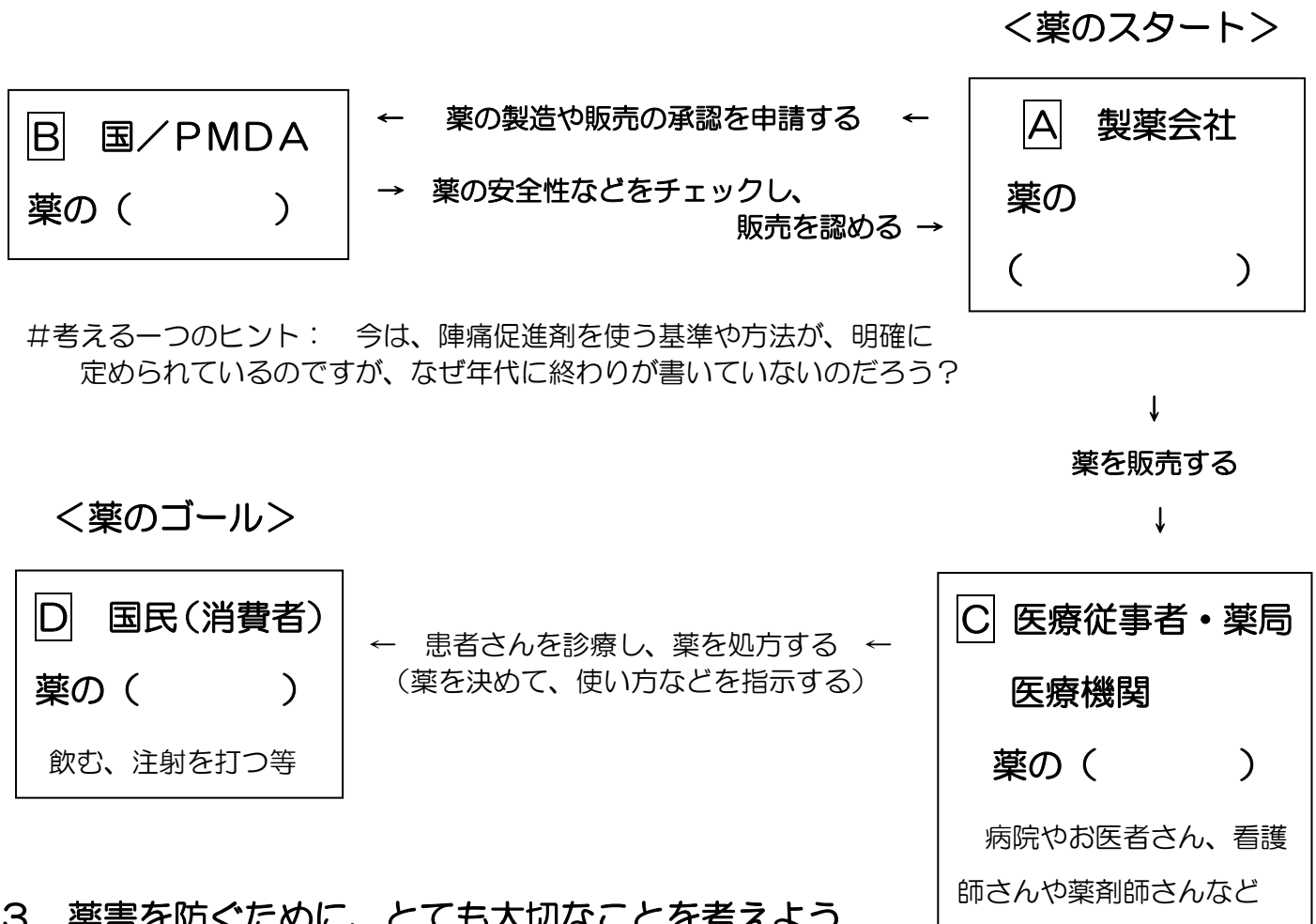
< x7 >

[illegible]

2 私たちのもとに薬が届く流れを確認し、薬害をどう防ぐかを考えよう

* 私たちが飲む薬、打ってもらう注射などは、どのような流れで私たちのもとに届くのでしょうか。
パンフレットのp5～6の次の図を見て、あてはまる語句を調べましょう。

下のA～Dの流れのなかで、もしも、どこか（だれか）が自分たちの役割と責任をしっかりと果たさなかったら、どうになってしまうのだろう？ 想像してください。



3 薬害を防ぐために、とても大切なことを考えよう

* パンフレットp6の下「学習ポイント」を読んで〔 ？ 〕に入る語句を、漢字2文字で答えましょう。

「 図中のA・B・C・Dがお互いに（ ）を共有し、それぞれの役割を果たすために活用する。 」

4 薬害の起こらない、また、被害者の方々が生きやすい社会をつくるために、私たちにできることはないだろうか？！

現在は、このような薬害による多くの尊い犠牲のもとに、副作用による被害を救済する制度ができています。パンフレットの裏表紙には、「健康被害救済制度（けんこうひがいきゅうさいせいど）」や、薬の副作用や正しい使い方についての情報が載っています。いつ、だれが薬害に合うかはわかりません。自分だったら・・・と思って、ぜひ読んでおいてください。

新型コロナウイルスのワクチンも含めて、私たちもいろいろな薬を飲んだり、注射したりしていますし、今後もしていくでしょう。薬の副作用を0にすることはできませんが、私たちが薬の被害者になることをできる限り防ぎ、「薬害を繰り返さない」ためにはどうしたらいいのでしょうか。

3年（ ）組（ ）番（ ）

[illegible]